

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】令和 3 年 8 月 19 日 (2021.8.19)

【公開番号】特開 2020-120817 (P2020-120817A)
 【公開日】令和 2 年 8 月 13 日 (2020.8.13)
 【年通号数】公開・登録公報 2020-032
 【出願番号】特願 2019-13525 (P2019-13525)
 【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【 F I 】

A 6 3 F 7/02 3 2 6 Z

【手続補正書】

【提出日】令和 3 年 7 月 12 日 (2021.7.12)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 0 1 】

本発明は、遊技機に関する。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 0 4 】

しかし、従来の遊技機では、各信号パターンの間で干渉（クロストーク、混線）が生じる可能性があった。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 0 5 】

本発明は、各信号パターンの間の干渉を抑制することを目的とする。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 0 6 】

本発明の代表的な一形態では、ゲームを実行可能な遊技機において、所定回路と通信を行うための複数の信号パターンと、前記所定回路の動作を可能とするイネーブル信号パターンと、前記所定回路をリセットするリセット信号パターンとを有する基板を備え、前記基板において、前記イネーブル信号パターンと当該イネーブル信号パターンに近い側の前記信号パターンとの間隔が、複数の前記信号パターン同士の最小間隔よりも広く、前記リセット信号パターンと当該リセット信号パターンに近い側の前記信号パターンとの間隔が、複数の前記信号パターン同士の最小間隔よりも広い。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

本発明の一形態によれば、各信号パターンの間の干渉を抑制することができる。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ゲームを実行可能な遊技機において、

所定回路と通信を行うための複数の信号パターンと、前記所定回路の動作を可能とするイネーブル信号パターンと、前記所定回路をリセットするリセット信号パターンとを有する基板を備え、

前記基板において、前記イネーブル信号パターンと当該イネーブル信号パターンに近い側の前記信号パターンとの間隔が、複数の前記信号パターン同士の最小間隔よりも広く、前記リセット信号パターンと当該リセット信号パターンに近い側の前記信号パターンとの間隔が、複数の前記信号パターン同士の最小間隔よりも広いことを特徴とする遊技機。